

6番 朝倉秀康 議員

質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者	答弁者
1 コミュニティバスの運行事業の進捗状況について	<p>かつて地域内にあった商店や病院が無くなって久しい。コミュニティバス路線から外れている遠距離交通弱者にとってタクシー利用が主であり、非常に厳しい生活環境にある。平成25年9月議会で、この件について、私は質問し、道路事情からデマンド方式の導入をしてはとの意見も述べた経緯がありますが、その後三重町の一部、清川町の全域についてはデマンド方式を導入しており、昨年6月には本市の高齢化が進んだ地域において持続可能な公共ネットワークを実現したとのことで、国土交通大臣から表彰されました。また、今年度は路線変更の見直しを行ったとも聞いていますが、どのように変更したのか、その経緯と進捗状況についてお伺いします。</p> <p>① どのように見直したのかお伺いします。また、今後どのように見直すのかお伺いします。</p> <p>② 制度の充実に伴いより多くの市民への利用PRをすべきと思うが。</p> <p>③ まだ、路線より外れている地域への今後の展望について伺う。</p>	市長	市長
2 限界、またそれに近い集落にどう対応しようと計画されているのか	<p>過疎高齢化の波は年ごとに加速している。生まれ育った地域で暮らす人々は生活道路を確保すべく、市道の草刈を行っているが、年ごとにかつての仲間はいなくなり、その分残っている者に守備範囲は拡大していく。残っている者として年ごとに衰えていて限界を感じつつある。しかし、今や生活にかかせない宅配便や救急車、消防車が通る最少のインフラを確保しようと懸命に頑張っている姿、その信念は市道といえども地域住民が守るのが基本であるとの心の姿勢を貫いているのが地域の実態である。その主力は実に70歳代後半から80歳代である。この現象は本市だけではない全国的な実態であろうと考察する。</p> <p>そこで、質問ですが、これらの集落について市はどう対応しようと考えているのか伺う。また、全国的な現象であり国策での対応が望まれるがその方向性はないのか伺う。</p>	市長	まちづくり推進課長

9番 衛藤竜哉 議員

質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者	答弁者
1 期待する大分都市広域圏構想の取組について	<p>近隣自治体間の連携によって地方の活性化を図ろうと、国は新たな広域連携「連携中枢都市圏構想」を推進している。その拠点都市の一つに大分市が選定され、大分市は平成 26 年度から別府市、臼杵市、津久見市、豊後大野市、由布市、日出町そして竹田市の 7 市町と連携都市圏の新たな行政の枠組みを構築し取り組むようになったとお聞きした。これは、我が豊後大野市にとっても大きな期待の持てる構想で、これからの協議の推移を見守りたいと思う。</p> <p>大分市と各市町との 1 対 1 での連携だそうだが、市としてどのような分野で連携をしたいのか、させてもらうのかを打診しなければいけない。現時点での構想、思いを伺う。</p> <p>※ 産業振興、防災、医療、観光、公共施設の相互利用など</p>	市長	市長
2 「特定空き家」の対応は	<p>国が平成 26 年 11 月 27 日に公布された「空き家等対策の推進に関する特別措置法」は、「特定空き家等に対する措置」に関する適切な実施を図るために必要な指針（ガイドライン）を定め、各市町村が地域の実情に応じた空き家等に関する対策の実施主体として位置付けられている。全国的にも、誰も住んでいない、生活されていないような空き家等が多くあり、所有者が特定できない、周辺地域の住民に不安を抱かせる等の大きな問題となっている。</p> <p>このガイドラインを豊後大野市では、どのように取り組んできたのか。これからは対象となる空き家の調査等を行い、少しでも地域の不安を感じさせるような「特定空き家」の対応策を講じる検討が必要と思うが、考えを伺う。</p> <p>※ 旧公共施設、文化財施設等も「特定空き家」の対象になるのか。</p>	市長	建設課長

10番 恵藤千代子 議員

質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者	答弁者
1 18歳に選挙権、投票率の向上について	選挙権年令を18歳以上に引き下げる改正公選法が成立した。若年層への政治や選挙への関心を高めるため取組等、投票率の向上策を伺う。	選挙管理委員会委員長	総務課長
2 三重総合高校の支援について	本市唯一の県立三重総合高校は、今年で10周年を迎える。本年5月、三重総合高校地域振興協議会（三重総合高校の明日を拓く会 会長は市長）が設立された。今後少子化が急速に進行する中、本市唯一の高校として生き残ってほしいと願っている。市長はリーダーとして学校や生徒の支援策について、どのような考えをもっているのか。また、県への要請活動についての考えを伺う。	市長	市長
3 地域創生、人口減少に歯止めを。三世帯同居、近居のススメについて	田舎暮らしを希望する人の移住推進は、もちろん大歓迎だが、本市で育った人に地元に残ってほしい。地元に戻ってきてほしいと願っている。2世代、3世代同居、近居支援策を検討してはどうか。	市長	まちづくり推進課長

15番 衛藤正宏 議員

質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者	答弁者
1 豊後大野市の環境整備の現状と課題について伺う	① 各町ごとの合併浄化槽の設置状況と今後の推進に係る課題について伺う。 ② 三重原悪臭問題について、現状と今後の対策について伺う。 ③ 河川環境の整備と水質保全及び生態系の維持について伺う。	市長	市長

17番 宮成昭義 議員

質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者	答弁者
1 特色ある町づくりビジョンについて	<p>合併して10年、豊後大野市が目指す都市像「豊かな自然と文化をつなぐやすらぎの交流都市」の下、7町全体の生活基盤の安定、安心して暮らせる地域づくりということで、行財政改革を始め各分野での事業の推進、実施されてきたと捉える中で、「我が町はこういう町だ」という町はないと考えます。</p> <p>各町における新たな特色ある町づくり構想、ビジョンを示すべきではないかと考えますが、市長の見解を伺います。</p>	市長	市長
2 公共施設の処理・整備状況について	<p>① 旧中央公民館や旧清川中学校の処理は。併せて大野支所の取扱いは。</p> <p>② 屋外におけるスポーツ施設の整備状況は。</p>	市長 教育委員長	①財政課長 ②社会教育課長
3 過疎地域自立促進計画における事業達成と見直しについて	<p>本市過疎地域自立促進計画第2次計画(5年間)が本年、平成27年度で終わり、第3次計画に向けての検討がなされているようであります。第2次計画における事業達成状況について伺います。併せて第3次計画に新規事業を組み込もうと考えているのか、市としての所見を伺います。</p>	市長	地域創生課長

7番 神志那文寛 議員

質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者	答弁者
1 下赤嶺地区の雨水排水改善を。	<p>下赤嶺の赤嶺バイパス沿いの地域は、店舗も多いが住宅地でもあります。低地であるため広い範囲から雨水が集中し、この市街地と水田の地域を抜けて、3か所で三重川へ排水されていますが、近年頻発するゲリラ豪雨時には、道路の冠水や側溝からの噴出が発生しています。</p> <p>この地域にバイパスが開通したのは1989年で、それ以後、市街地が形成されました。当時の基準で設計された側溝等は、近年の想定を超える豪雨を、許容できなくなっているのではないのでしょうか。</p> <p>住民の安全・安心な暮らしのために、改善を求めます。</p> <p>① この地域における冠水や側溝からの噴出の状況や原因については、どのように把握し、どのような対策を行っていますか。</p> <p>② 新しい商業業務地が形成されれば、三重川への排水</p>	市長	市長

	<p>が増えることが想定されますが、どのように把握し、どのような対策を行うのでしょうか。</p> <p>③ さらに東部の下赤嶺東区内に、ホテル進出の造成が始まっています。4,043㎡の原野がアスファルトに変わることで、低地への雨水流出が増えることになります。低地における排水容量は、これを許容できるのでしょうか。どのように把握し、どのような対策を行うのでしょうか。</p>		
<p>2 FMラジオ受信の改善を。</p>	<p>市外の方から、「豊後大野は、FMラジオが入りにくいところが多い」との声が寄せられました。豊後大野は山間地域であるため、全体として受信しにくい地域が多いことは想像できますが、市外から車で、仕事やレジャーに来られた方を、このように落胆させることは大変残念なことです。</p> <p>またラジオ放送は、災害など緊急時の防災面の活用も再認識されています。阪神大震災、東日本大震災では停電時でも使える情報源として、より身近な生活情報や被災者の安否情報などを伝える役割は大きかったと言います。</p> <p>ラジオが持っている、場所を選ばずに携帯できる、他の生活行動を妨げずに聴くことができる、災害時などで威力を発揮することなどの特性の全てが他のメディアに取って替わられることはないでしょう。</p> <p>市内全域は無理にしても、特に重点を絞って、FMラジオ受信の改善策を検討すべきではないでしょうか。</p> <p>① 市内のFMラジオが受信できない地域は、把握しているのでしょうか。</p> <p>② 市内全ての避難場所・施設において、各家から持ち出した「音声お知らせ端末」はFMラジオを受信できるのでしょうか。受信できない場所については、早急に対策が必要ではないでしょうか。</p> <p>③ 著しく受信状態が悪い国道、県道、主な市道沿いにおいては、「トンネル内ラジオ再放送システム」の応用で、FMラジオ電波を送出する検討をしてはどうでしょうか。</p>	<p>市長</p>	<p>情報推進課長</p>

4番 小野勇治 議員

質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者	答弁者
1 市職員の人事制度について	<p>地方創生の中で、新たな発想や手法で施策の立案、調整、実行していく能力が、市職員にも求められています。行革による定員削減で、一人当たりの業務量が増大することに加え、特定の分野や、専門性の高い職員が求められているのではないかと。そこで伺う。</p> <p>① 本市の人事異動に関する、これまでの基本的方針、また高い専門性が求められる所属の有無とその業務の現状と課題について伺う。</p> <p>② 女性管理職の登用を積極的に行うべきではないかと。現状を伺う。</p> <p>③ 管理職の退職勧奨制度は廃止すべきと考えるが、所見を伺う。</p>	市長	市長
2 市報7月号について	<p>市報7月号には、市が直轄経営する市民病院の定期健診の充実が図られ、市民への受診を呼びかけている。一方、市内個人経営の病院の健診に関する宣伝が掲載されているが、違和感がある。</p> <p>① 市民病院の位置付けは。</p> <p>② 広告は、申込みがあれば載せるのか。</p>	市長	<p>①総務課長</p> <p>②財政課長</p>

5番 内田俊和 議員

質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者	答弁者
1 市長からの要求に基づく監査結果について	<p>① 市長に対し措置を求める事項について伺う。</p> <p>② 監査委員からの適切な措置を講じられたいとの要請について、どのように対応しているのか伺う。</p> <p>③ 補助金の返還は求めたのか。</p> <p>④ 観光協会の発展的解消とは、どのような姿を考えているのか。</p> <p>⑤ 新組織として誕生した一般社団法人ぶんご大野里の旅公社の補助金についても補助金交付要綱を定めているか。</p> <p>⑥ 今回の監査において、補助金交付事務に適正を欠く事例が認められることから、他の補助金交付団体等においても、同様の状況が懸念されると監査指摘されたことを真摯に受け止め、市民の信頼に応える対策について、どのように考えているのか。</p>	市長	市長
2 豊後大野市の農業振興をどのような目標をお持ちですか	<p>① 農業振興は少子化、高齢化によることが合併時より課題として述べられていますが、今日において対策はどのようなになっているのか。</p> <p>② 地域創生で何か取り組む考えはありませんか。</p>	市長	農業振興課長

11番 長野健児 議員

質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者	答弁者
1 電気柵の安全性について	電気柵の安全性について、静岡県西伊豆町の電気柵事故を受けて市としてどのような対応をしたのか。	市長	農林整備課長
2 本市農業の今後について	第2次農業振興計画も最終年を迎え、いわゆる第3次農業振興計画策定に取り掛かっているところであろうと思うが、第2次計画の検証をし、それに基づいて、さらなる改善を図りながら、次期計画の策定を進めるべきと考えるが、その取組について伺う。	市長	市長
3 職員の人事について	行財政改革を進める中、人件費削減に伴い、職員の機動性がなお一層求められるようになってきた。適材適所でロスのない人事の工夫が求められると思うが、どのようなことに配慮しながら、どの組織で行っているのか伺います。	市長	総務課長

19番 首藤正光 議員

質問事項	質問の趣旨	答弁を求めた者	答弁者
1 合併10年を振り返って	① この合併は成功であったのか、どのように考えているのか。 ② 合併10周年記念行事について、今後どのようなことを行うのか。	市長	市長
2 定住促進について	① 職員にも協力をお願いしてはどうか。 ② 市外通勤者は何名いるのか。 ③ 市外に住む理由は。	市長	総務課長
3 市営住宅管理センターについて	市営住宅管理センターについて、現状と費用対効果について伺う。	市長	建設課長